



Rotary International District 2800 山形西ロータリークラブ会報

会長：東海林 健登 幹事：武田 岳彦

地区目標

中核的価値観のもと、時流対応の時
～奉仕の心の醸成と実践するロータリアン～

クラブテーマ

ロータリーの価値を改めて考え、そして楽しむ

■奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

◆点鐘：東海林健登 会長

◆ロータリーソング：奉仕の理想

◆司会：長谷川浩三郎 S.A.A.

◆会場：山形グランドホテル



Yamagata West Rotary

第2947回例会

令和4年6月20日(月)

会長あいさつ

東海林 健登 会長



今年度、青少年委員会の事業である「こども食堂の立ち上げ支援事業」を6月10日に宇佐見委員長、武田幹事と私とで立ち上げ中の子ども食堂を訪問して参りましたので会員の皆様に、報告させていただきます。

「こども食堂」の名称が用いられ始めたのは、2012年東京都大田区東矢口の「気まぐれ八百屋だんだん」の一角に「こども食堂」が設置されたのが最初とされています。貧困家庭や孤食の子どもに食事を提供し、安心して過ごせる場所の提供として始まり、「子ども一人でも入ると同時に、大人も入ってもいい場所」との意味で「こども食堂」と名づけられたとのことであります。最近では、「こども食堂・地域食堂」と呼ばれております。今年で「こども食堂」の名が使用されて10周年を迎えます。

山形市では、貧困のため食事が満足にとれない、又核家族化が進み共稼ぎで夕食が孤食となる子供らのために、平成28年から「こども食堂」が創立され、現在12食堂が存在し2食堂が設立準備中ということでもあります。その設立準備中の二食堂の一つが今回本クラブが設立支援している「松山こども食堂」であります。

新型コロナウイルス感染症のために開所が遅れてしまいましたが、建物内設備工事については完了しておりました。

当食堂の山口代表から「現在は、地域の貧困家庭の子どもたちの孤食を防止し子どもらが笑顔ですごせる場所を提供することを目的として、新型コロナの状況等考慮のうえ地域の民生員、近隣にある山形大学学生寮の方々との協議の上開所すべく準備中である」との説明を受けました。

運営団体といたしましては地区有志のボランティアで、対象が小学校の低学年。定員は10名以内くらい。場所は山形市松山2丁目11番28号。参加費はもちろん子どもたちからはいただかないとのことであります。

尚、開所後、現在の代表者である山口齊氏が当クラブにおいてになり御礼の挨拶をさせていただきたいとのことでありますことご報告させていただきます。

甚だ簡単ではございますが、今年度事業の最後の事業でございますので、本事業の経過報告をさせていただきます本日のご挨拶とさせていただきます。

幹事報告

武田 岳彦 幹事

- 第11回のメジャードナー表彰、米山功労者として武田元裕さんに表彰が届いております。おめでとうございます。
- 年次報告書の冊子に載せる委員会報告、まだ未提出の委員長さんおられましたら事務局まで提出をお願いします。データであればメール、手書きであればファクスで結構ですので、お早目にご提出をお願いいたします。



米山功労者表彰 武田元裕さん

ニコニコBOX

〈6月20日〉

東海林健登会長／山寺立石寺住職清原正田先生をお招きし、貴重なお話を聞けることにニコニコします。

市村清勝会長エレクト／清原正田様をお迎えして本日の清原様の卓話を大変楽しみにしておりました。

遠藤正明さん／清原貫主をお迎えして年度最後の卓話が清原貫主の尊いお話になり、うれしく思っています。短い時間で申し訳ありませんが、よろしくお願いいたします。

武田元裕さん／ようこそ清原貫主。

長澤裕二さん／コロナ克服か『トップガン マーヴェリック』が大当たりして今月の売り上げがコロナ前のレベルに戻りつつあります。来月には『ジュラシック・ワールド』や『ミニオンズ』も控えています。このまま夏もコロナ前の水準にしてくれることを願います。



慈覚大師はなぜ ここ山寺に開山したのか

清原 正田 氏

宝珠山 立石寺 貫主

ただいまご紹介いただきました山寺立石寺の清原と申します。山寺立石寺という寺のことを絡めてお話させていただきます。

多分山形市内における寺院の中では、歴史がはっきり分かるものでおそらく古さから言えばナンバーワンなんだろうなと思っております。今から1150年前に、平安時代の初め、円仁様が山寺立石寺を開いたという古文書が残っておりまして、平安時期における古文書が残る寺院というのはそう数多くあるわけではありませんので、そういう意味からしてもかなり有力な古い寺であったんだろうということが分かるわけでありまして。

今から1150年前という平安時代の話ですから、この辺に人がどのくらい住んでいて、どういう生活をしていて、社会がどうなっていたのかという詳しい資料はほとんどありません。特に村山地区というのは山形県内では遅く開けたといえますかね、かなり遅くなってからこのような状態になったと思われております。

歴史から言えば、一番先には日本海側から、当然のことながら都から来た人たちは舟で海岸線を移動してるわけでありまして、そちらのほうから来たと考えるのが妥当なわけでありまして、そういうことをいうと、太平洋側というのはずっと遅れて開けてきまして、多分200年以上遅く、日本海側よりも遅く、開けてきたのではないかなというふうに思われます。

いい証拠が、「みちのく」という言葉をつけますね。陸(りく)の奥、陸(みち)の奥なんでありまして。陸奥(むつ)の国、この陸(りく)の奥と書いて「むつ」と読みましたですね。奈良時代、日本の国に越(えつ)の国、越後、越前、越中といった、越の国とかってなっていくわけですが、陸奥の国というのは福島から北、全部1国です。その中が徐々に分けられて、出羽だとかそういう国ができるようになるのでありますが、最初は陸奥の国1国です。お分りのとおり、奈良時代から平安時代の初め頃ですと、東北全体はほとんど未開の地で、どういう人たちがどのように生活していたのかということは都の人には分からないということだったんだろうなと思います。

関東と陸奥との境はどこら辺だったか分かりますか？今だと栃木県が関東で福島県は東北だと思っておりますが、かつては関所が国境(くにざかい)に作られましたから、それを考えると白河が、あのあたりが境目です。白河から先は1山100文と言われたそうです。どれだけの数の山があったのか分かりませんが、そういう状態であった時に山寺立石寺が開かれていったということになります。ここを選んだ理由というのは、特には分かりません。いろいろ想像されると、こういう理由ああいう理由というのですが、なかなか分からないところがあります。

もともと慈覚大師というお坊さんは栃木県の、今の宇都宮の近辺のお生まれです。壬生のお生まれでありまして、壬生の円仁といわれた方ではありますが、大変幼い頃から英明の誉れが高く、中央の寺にこの子は預けたほうが良いということになるわけですね。その時に伝教大師最澄という天台宗の開祖ではありますが、その方々がたまたま関東、栃木県のほうへ来られるんですね。そういった因縁もありまして、円仁さんは最澄さんのお弟子ということで京都へ行く。延暦寺へ上ってそこで僧侶となるということになりました。

それで、その後いろいろと勉強をされまして、唐の国、今でいう中国ですね、唐の国へ遣唐使として渡られます。それで唐の国で足かけ10年過ごされまして、日本に帰って来られて、現在の日本の仏教といえますかね、既成の仏教といわれるものの大きな礎を築かれた方でもあります。

僧侶は弘法にとられ、と昔からいいまして、お坊さんという弘法大師が1番有名で、その次日蓮さんといわれます。仏教というのは最先端の技術と思想と、そういう学業といえますか、芸術といったものを一緒にたにしていたものであります。最終的には国家事業として仏教を取り入れるということになりました。仏教というものを、どん欲に求めていたんですね。それでたくさんの方々が中国へ渡りいろいろなものを持って来るとことになるわけですが、円仁さんもそのうちのお1人でして、いわゆる遣唐使、国がちゃんと国費をもって、給与を支給して勉強に行かせたというのは円仁さんまでです。

中国からたくさんいろいろなものを持って帰ってこられました。それで東北地方を回ったと書いてあるのですが、実際、円仁さんは中国から日本に帰ってこられてからほとんどずっと一生涯を京都の近辺で過ごしておりまして、ほかになかなか行く機会がなかっただろうなと思います。

じゃあ東北地方のお寺、誰が作ったの。円仁開基となっておりますが、ほとんどはそのお弟子さんであった方が開き、作った時に、師匠である円仁さんをお願いして「御開山しましたので、よろしく願います」というようなことを文書を送って、開山になっていただいた、という歴史だろうと思われております。

その当時、このあたりを開いた方が、羽州探題といわれまして、羽州、陸奥の国をあちこち回って大きなお寺を作ったということです。松島の瑞巖寺、最初は円通寺。それから平泉の中尊寺、毛越寺。福島の伊達の霊山寺というお寺とか、あるいはずっと北のほうに行きまして、青森の恐山円通寺なんていうところまで作ったと書いてあります。

そういったお寺をどんどん作って行って、貞観2年、多分一番最後のほうに寺立石寺が作られたお寺ということになります。

当時「立石寺御本堂根本中堂を中心に四方十里の境内を有す」と書いてあるんですね。40キロ四方は立石寺だった。北のほうは六道辻、どうも48号線と13号線が交わるころのちょっと北側であったといっております。

南のほうはフタゴヅカ、どこだかよく分からないんですが、南のほうは、この先がリョウゼンジ、瀧山ですね。瀧山にあったお寺との境くらいまでだという話。ですから鳥居がありますよね、大鳥居。あの近辺までというふうに言われました。

西のほうは国境(くにぎかい)、陸奥と出羽との国の境までであった。あの当時、今は奥羽山脈の峰が県境になりますが、あの当時は奥羽山脈という山並みはほとんど全体が出羽の国の領になってますから、向こう側まであったということになりますね。事実、室町期ぐらいまでは秋保の大滝のところまでは立石寺だったってなってますから、そのぐらいまでであった。

東のほうは須川と書いてあるんですね。須川と最上川の合流点のあたりまであったんだらうというふうにいわれてるわけでありませう。ということだと、相当広いなという感じますね。

現代に近くなると、いろんな古文書が出てきますよね。それで室町期以降になりますと、結構歴史がしっかりしてきます。現在の天童市に領主、といいますが、殿様がいたんですね。その最上家の一族であった天童氏という者が立石寺の寺領をだいが切って、自分の領地に組み込んでいくということが起きたんだと思っております。ただ、立石寺の寺領はそれでもの天童市内にかなり広く残っております。現在の山寺から立谷川をずっと下っていったところ、そのあたり一帯が立石寺の寺領であったと思われませう。証拠は、江戸時代になった時に、江戸時代の3代将軍家光公が結構主だったお寺に、御朱印状を授けて寺領を定められるわけですが、その時に「立石寺寺領1420石を認める」と書いてあります。千石取り、当時江戸時代の初めで千石取りということ、いわゆる江戸幕府の中では奉行よりちょっと上ぐらいのクラスの役人に相当します。万石というともうほとんどそういうところに近くなるのですが、千石を超えると奉行職ぐらいまでにはなれるというぐらいの石高を持ったということになります。

どこに持ってたのかということ、高掬ですね。天童の高掬村より800石、その南にあったと思われる青柳村から200石、山寺村より420石、都合1420石を認める、と江戸時代の文書に書かれるわけですから、当時そのぐらいまでは立石寺領だったと思われるわけですね。でも高掬村は、当時、千数百石の石高を持ってるんです。この辺では相当大きな村だったわけですね。ですからそのうちから1000石を山寺に納めた。

かつてそのあたり一帯に米を穫らせるために立谷川の水をずっと引きました。高掬関と称しますが、山寺へ来る時の川原に大きな駐車場があるんですが、あそこが取水口でありまして、あそこから川を掘って引いていきました。荻野戸、荒谷、それからその先、清池、そういったところを引いて高掬までその水を運んだわけでありませう。

当時農業用水というのは大変貴重でありましたから、水を管理するというのはすごく重要だったわけで、水争いが起きたりしました。主だった水の番人、山寺村の者が指名されて行ってたそうです。それは高掬関を管理するため行っていたということを知っており、そういったところを含めてもそのあたり一帯がかつて立石寺領であったんだらうと思われませう。

立石寺という寺は相当広い勢力を持った大きなお寺で、寺といってもあの当時はほとんど学校ですね。小学校から大学までを全部一貫教育やってたようです。立石寺に入ってくる、寺領から入って来る扶持米や食料はそこに住む僧侶のための維持費だったわけですね。何をやってたのかというと、いろいろなことを勉強する、学ぶためのものでありませう。それで立石寺には、相当多くの書物が多分保管されていたはずですね。一切経といましてすべての経文を収めたもの、万巻の書といったら1万巻を超える書物が収められていたと思われませう。それをみんな写したりして読んだということになります。

立石寺の下のほうには、かつて薬草園であったということも残っております。いわゆる文化の発祥と言いますが、そこに大きなお寺が作られたことにより、お寺を維持するための農耕の技術であるとか、建物を作る技術、仏像を彫る、建物を作る、土留めをしたりいろんな塔中を作る、そういう技術者も寺に来るわけでありませう。ですから、その人たちが作り終わったらすぐ帰ったっていうわけでもないし、だいたい立石寺クラスの寺を作るためには何十年もかかったわけですから、その人たちが次のいろんな方々に、土地や技術を伝えたわけですね。そしてこのあたり一帯に、物を作るという技術であるとか、橋を架けるとか、そういう技術が広まっていったとなるわけでありませう。

一番最初に政府が、といいますが朝廷が来て、そういっ

たものをどんだん作っていったのでしょいうけれども、それ以上に寺の果たした役割というのは相当大きかったんだらうなと思っております。そういったことが立石寺というものが存在していたという一番大きな理由ということになるわけですね。

それで山寺に、どうしてあんな狭い谷のところで作ったのか。もうちょっと広い谷の所に作れば良かったのにといい声はあるのですが、あの辺を選んだという理由は、一節



によれば当時あの辺に住んでいた幾ばくかの方々、あそこを信仰の対象として山を拜んでいたのではないか、そう説を唱える方もおられます。今後そういうことで研究が進むと楽しみだとも思っております。

本題からはずれるかもしれませんが、仏教を広めるといふのは、お釈迦様の言った教えを広めるといふのが一番の理由なわけですね。仏教のことを学ぶにお経の本を読みます。天台宗でもお経の本を読むわけではありますが、一番最初に、平安時代の最初は「天台法華宗」といったんです。中心のお経は法華経を中心としておりました。その中に浄土教、南無阿弥陀仏と唱える浄土教が取り入れられ、修行の方法として座禅が取り込まれました。かくして天台宗では、座禅、念仏、法華、全部のものを勉強するということになります。もう1つ加えて、密教といわれる、いわゆる加持祈祷といわれるものですが、そういったものも含まれます。密教の究極は加持祈祷ではなく、「自分自身が仏となり、人の悩み事を聞き届ける」ということが目的でありますから、自分自身が仏になるというための方法論が密教の中に書かれているわけでありまして、それを勉強するということがあったんですよ。第一人者は日本では弘法大師ということになるわけではありますが、それに続く方々として天台でもたくさんの方々密教を勉強しました。そもそも慈覚大師円仁は密教を学ぶために中国へ渡ったということになるわけではありますが、いずれにしてもそういったことを伝えてきて日本で広めたということになります。

仏様の教えというのは、何言ってんだかよく分かんないという人が大半だろうと思います。何を話しているんだか分からない。もともとお釈迦様は非常に単純なことを言っていたんです。後々だんだん尾ひれが付いて、こうでもないああでもないといっぱいになって、たくさんのお経の本になっていったんです。最初はごく薄い小冊子だったかもしれませんが。お釈迦様が亡くなったあと100年ぐらいかけて、お釈迦様はこう言ったよね、ああ言ったよねということが書き留められまして、メモが膨大な資料になって经典、お経が作られるわけではありますが、それが今私たちが目にしているものでありまして、さらにそれからいろいろ尾ひれが付いているんなものが研究されて現在のようになっているんです。

お釈迦様自身は王様です。奥様もいて子どももいた国王なんですから、国を統治するという立場だった方です。その方が、国民も何もかも全部投げ捨てて出家してしまったわけです。それで、何を求めたのかということがいろいろ言われるわけがあります。

『一隅を照らす』という、伝教大師最澄という天台宗の開祖が、こういうことが仏教の基本である、と書いて書かれた本であります。平安時代の今から1,200年前に書いたものです。『国宝とは何者ぞ 宝とは道心なり 道心ある人を 名づけて国宝と為す』。国の宝は人材だと言ったんです。当時の人にとって宝物というのは宝剣であったり勾玉であったり、そういうものが宝だったわけです。でも伝教大師は宝とは人間だとおっしゃって、それを育てるた

めに天台宗を開きます、ということ宣言される。これ大変大事なことで、以後日本の仏教界の中で「イチリュウをナす」というのはこれがあったからです。

この精神を受け継いで、受け取っていくと誰でも仏になれる、すべて平等だという考えに到達していきます。結果、親鸞聖人のように悪人正機といってどんな悪人でも必ず往生できる、という考えはここにあるわけです。すべてのものは必ず往生できる、全部平等であるという考え方によったわけでありましてね。これは当時からいけば大変画期的で、大変素晴らしいことだったと思います。一隅を照らすは国の宝なり。一隅というのは何なのかというと、自分の置かれた場所。自分の置かれた場所を守り、そこを素晴らしいものにしていくということが大事だということですね

悪は作(な)すな。「もろもろの悪は作(な)すこと莫(な)く もろもろの善を行え 自らの意(こころ)を浄らかにせよ 是、諸仏の教えなり」。これがお釈迦様の教えだというふうになっています。『悪は作すなかれ。善を行なえ。自分の心を浄らかにしなさい。お釈迦様はこのことだけをおっしゃった』と諸仏が言っている」と書いてあります。これは仏教というものを、皆さんこれから何かで話をするときに大変大事なことだろうなと思います。『悪いことはするな。ちゃんといいことをしなさい。自分の心を浄らかにしなさい。浄らかにということは自分の置かれた立場を理解して、ちゃんと社会に還元できるようにしなさい』というのがお釈迦様の元々の思想であった」と書いてあります。この4句は天台宗の经典に「諸仏の教え」と書いてあって、それがこの言葉だけが書いてあります。大変短くて大事なことだと思っております。

立石寺の成り立ちから仏教まで、いろいろと盛りだくさんで話をさせていただきました。どうもありがとうございました。

最終クラブ協議会



6月18日土曜日
四山楼にて最終クラブ協議会
が開催されました。

本日出席 (6 / 20)	会員総数	出席会員数
	99名	69名 (Zoom参加者6名含む)